

“夢の実現へ 四王寺山展望台”

日本遺産広域認定後の新たな取組み

令和2年6月19日、文化庁は、平成27年度に認定されていた「古代日本の『西の都』〜東アジアとの交流拠点〜」について、その範囲の拡充を公表しました。これにより、大野城市を含めた5市2町に所在する文化財群が日本遺産に認定され、構成自治体は、福岡県、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市、宇美町、佐賀県基山町の8団体となりました。

日本遺産の認定を契機として、県と関係する7つの市町が一体となり、地域の皆さまと連携しながら、様々な施策を展開していくとともに、

「西の都」を支えていただいている地域の皆さまが、今まで以上に故郷に誇りを感じ、この日本遺産を広域ブランドとして発展させていく必要があると考えています。

私は、決算特別委員会の質疑で、この日本遺産を観光資源として磨き上げ、国内外へその魅力あるストーリーを戦略的かつ効果的に発信していくことや、観光やまちづくり等の施策と連携しながら進めていくことなど、文化財保護の施策だけではなく、文化芸術

振興をはじめ、地域振興、観光振興など様々な観点から施策を展開していく必要性について質したところです。執行部からは、当該日本遺産を所管している県教育委員会と、文化芸術振興、観光振興などを所管する知事部局がしっかりと連携して取り組んでいくとの答弁がありました。

今後は、この日本遺産を地域の誇りとして醸成する取組みや、啓発・情報発信、そして観光資源として活用していくことが必要であり、地域の皆さまとともに取り組んでいきたいと考えています。

大野城跡を中心とした一連の文化遺産群



遠くは博多湾を望む百万ドルの夜景です。(展望台から見たイメージ図)

四王寺山に登ると、眼下に大野城跡と一体となって築かれた水城跡や、大宰府政庁跡を見ることができます。特に平野を真一文字に遮断した水城の長大な土塁は、博多湾に上陸した敵兵をくいとめるための防御壁であり、いかにこの地域が軍事的に重要であったかが手に取るように理解できます。1350年前の国防の風景であります。

また、四王寺山西側の稜線に立ちますと、遠くに玄界灘と博多湾、そして福岡平野を眺望することができます。そこにはさらに古い時代の我が国でもっとも古い水田跡が見つかった福岡市の板付遺跡(いたづけいせき)があります。

「県民の森」創設50周年に向けた歴史展望台の整備

日本遺産を広域ブランドとする取組みの第1弾として、長年懸念事項として取り組んできた「福岡県自治研修センター」の改修と有効活用の取組みが進んでいます。老朽化した施設の改修を行い、行政職員だけでなく、「福岡県民が利用できる研修・学びの場」として位置付け、大野城総合運動公園の利用者などの利用を想定し、食堂などの改修工事を行うこととしており、令和5年度からの一般利用開始を目指しています。

私は、食堂の改修にあたっては、大きく開かれた窓から望む景色や緑

に囲まれた開放感のあるレストランをコンセプトに、福岡の食材を使った地産地消のレストラン、仮称であります。「ふくおかレストラン」として営業することを県に要望しています。

また、取組みの第2弾として、決算特別委員会での質疑で、宇美町にある県民の森センターのサテライト施設として四王寺山の中腹に、この地域の文化遺産を大パノラマとして実感できる歴史展望台を整備することを要望しました。

執行部からは、展望台の整備については、文化財保護法をはじめ、森林法、都市計画法、県立自然公園条例に照らし、解決すべき課題があるが、県民の森創設50周年を迎える令和8年に向けて、展望台の整備を含む県民の森のあり方について研究していくとの答弁がありました。

眼下に博多湾が広がり、遠く目をやれば玄界灘まで一望できる展望台を整備し、歴史の大パノラマを体感するために多くの人がこの地を訪れることを心から願っています。



善一田古墳群



御笠の森



牛頭須恵器窯跡出土ヘラ書き須恵器



牛頭須恵器窯跡 梅頭窯跡



牛頭須恵器窯跡 梅頭窯跡覆屋



水城跡(南西から)